



省長 韓正 駐劄軍司令部

紳正 札之 陸軍 駐劄地 支分 刻之  
 兼、何 著 統監 意見 王公 奉 有之  
 對 之 既 及 楊 條 蓋 於 今 般 之  
 別 請 覺 出 之 道 統 監 多 付 之 在 地 之 旨 之  
 其 為 其 世 亦 國 支 分 之 事 一 種 及 治 議 他 之  
 不 性 系 亦 得 已 情 况 之 札 之 後 才 亦 用 於  
 中 不 出 之 部 分 紳 正 政 村 運 還 其 係  
 之 之 已 之 其 官 條 之 最 為 宜 於 年 之 之 也 且  
 報 寄 之 札 為 多 之 旨 不

陸軍省 密發第一九六號  
 送達

道下統監より韓正、係、村本、殿、に、

件、ハ、係、セ、ウ、之、由、因、報、上、之、旨、亦、以、取、寄、之、旨、也、

九月二十二日  
 百



少府卿 林國正 制軍 在 漢 也 通 條

公 氏 甲 師 林 國 正 是 韓 國 收 用 也 通 條 對 此

公 氏 乙 師 之 通 條 在 軍 之 意 見 上 之 通 條

條 通 條 之 通 條 在 軍 之 意 見 上 之 通 條

陸軍省 送達 密發第一一六號

六月二十日



大正七年三月  
陸軍省  
大正七年三月  
陸軍省  
大正七年三月  
陸軍省

韓<sup>神</sup>國ニ於ケル軍用地ハ帝國カ韓國ヲ保護スルノ責  
ヲ盡スカ為軍隊ヲ同國ニ駐劄スルニ至リタル結果兵  
營敷地ノ必要ヲ生シタルヲ以テ曩ニ陸軍省軍務局  
軍事課長ヲ同國ニ派遣シ京城駐在帝國公使ト  
協議シ取敢ヘス京城平壤義州ノ地点ヲ選定シ韓  
國駐劄軍隊ヨリ韓國政府ニ交渉上兵營敷地トシテ  
收用シタルモノナリ而シテ此等ノ地ノ收用ハ明治三十七年  
二月日韓議定書ノ條項ニ基キタルモノナルカ故ニ之ニ關  
スル賠償費<sup>等</sup>ハ韓國政府ニ於テ負擔スルコト當ルナリト

維陸軍省ハ當時同國財政ハ状況、鑑ミ收用地域内  
 人民、苦痛ヲ軽減スルノ主旨ヲ以テ土地該地上物件  
 移轉補償費トシテ金二十萬圓ヲ支出シ之ト同特、  
 韓國政府ヨリ龍山平壤義州三個所ノ收用地ハ爾  
 後日本軍部ノ所有、屬シ官民共、一切苦情ナキコト  
 ヲ確保スルノ公文書ヲ同國駐劄軍司令官ニ交付ス  
 ルニ至リタルモノナリ  
 右ノ如キ次第ナルニ拘ラス曩ニ支出シタル前記二十萬圓  
 シ僅以テリトシ別紙調書ノ如ク更、補償金ノ追加ヲ  
 要求スルハ日韓議定書ノ條項及前記ノ成行、矛盾  
 スルノ處置ニシテ陸軍省ハ之ニ應スルコト能ハス點トモ收

用地域内ニ居住スル人民ノ苦痛ハ成ルヘク之ヲ避ケシムルノ  
 方針ヲルカ故ニ軍ニ於テ直ニ使用ノ必要ナキ地域内ノ  
 者ニ對シテハ家屋地上物件及墳墓等ノ移轉撤去  
 ヲ猶豫スルコトハ直モ異議ナキ所ナリ

甲

0940

收用地調

秘

秘

調



軍用地ノ總面積ハ京城三百萬坪平壤三百九十三  
 萬坪或咸州二百八十二萬坪ナリ内民有ノ屬スル田土  
 山林原野及家屋墳墓等トシテ賠償ヲ要スルキ  
 金額ヲ豫算スルニ別紙調書ニ如ク七十三萬餘  
 圓ト達シ當約日本政府カ該賠償トシテ支出シタリ  
 金額亦十萬圓ト超過スルコト實質ニ其三倍半以上  
 及ブリ然レバ軍用地ノ總面積ハ殆ント一千万坪ト  
 近キ廣大ナル地域ナルニナラス京城平壤共ニ市街ニ  
 接近シ形勝ノ地位ヲ在メ咸州亦得來好望ノ地ト  
 當ルヲ以テ右ノ豫算ハ寧ニ之ヲ增加スルキニ之ヲ減

經  
 覽

割スル丁ヲ得サル最低限ヲ計算シタルモノナルコトハ  
 別紙願書内訳ヲ見ニ明ラナリ  
 家屋ノ移轉科ハ瓦屋一間十七円草屋十円（瓦  
 州ノミハ各二円ヲ低下セリ）ニ該家屋及其付屬  
 宅地ヲ包含セルモノナリ蓋シ收用地ノ面積廣大ナ  
 ルカ故ニ遠リ敷里ノ地、移轉運搬セサルヲ得スレテ  
 其勞費大ナルノミナラス家屋墳墓ノ如キハ最モ  
 人心ノ動搖ヲ招キ易クシテ而カモ費額比較的寡  
 少ナルカ故ニ家屋墳墓ニ對シテハ是等ノ事情ヲ  
 精考シテ其最少限迄ニ於テ査定セシモノナリ墳  
 墓ハ有主ニシテ未タ葬祭ヲ絶ラササルモノハ一ササ三

十五元(義州ノミニニ十五元)ノ割合ヲ以テ交付シ  
 各本人ヲシテ之ヲ他ニ改葬セシムルコトヲ期スルニ無  
 主無縁ノモノハ軍ノ費用ヲ以テ奉還シ之ヲ合葬ス  
 ルヲ以テ足レリトシ其費用ヲ平均ニ分ト計算セリ  
 田土ノ賠償ハ一坪當リ京城七元平壤ハ元義州  
 六元ト定メタリ京城平壤ノ如キハ従来既ニ高價ヲ  
 唱へ居ルニミナラス近年交通ノ發達ハ更ニ其價格  
 ヲ騰貴セシメタリ以テ若シ其時價ヲ標準トシ  
 テ相當ノ賠償ヲ定メントストキハ右ノ十倍額ヲ  
 支給スルモ尚現在在者ヲシテ満足セシムルコト  
 能ハサルヘシト云々近年價格騰貴ノ主因カ鉄

發

覽

道ノ間通停車場ノ設置等ニ在リテ存シカフルニ  
 當國ノ於ル公用徴收ノ慣例力必シモ時價相當  
 ノ賠償ヲ要セサルカ如クナルヲ以テ亭々々々ノ賠  
 償價格、對シ彼等被収用者ニ於テ甚シキ不服  
 ヲ喝フルコトヲ得サルベシ是更レ彼此ノ權衡ニ付  
 テハ其地東地勢交通ノ便否物價ノ高低等  
 ニ審シ平<sup>集</sup>壤軍用地ニ言概ノ上ニ位スト認ムルヲ  
 以テ毎坪一斗ヲ加ヘ或州亦平<sup>集</sup>壤ニ比シテ多クノ  
 賦<sup>差</sup>屋ヲ設クルコトヲ得ス即チ毎坪二斗ヲ低減ス  
 ルヲ以テ相當ト認メタリ  
 土地官民有正分田土山林等地種及其面積ハ

堤技手ノ實測ニ依リ家屋墳墓ハ別ニ實地調査セ  
シメタルモノナルヲ以テ固ヨリ實數ト大差ナキコトヲ期ス

京城平壤及義州軍用地賠償

金額概算

一金三十一萬六百二十四圓五錢

京城軍用地總額 (已詳ノ分ヲ合シ)

一金二十九萬一千九十二圓九錢二厘

平壤軍用地總額

一金十三萬八千二百二十八圓七十八錢四厘

義州軍用地總額

合計七十三萬九千八百四十五圓二錢六厘

差引不足金五十三萬九千八百四十五兩二錢六厘

内二十萬兩

已領一分

京城軍用地

(一)家屋及墳墓已攝ノ分

此金三萬二千二百九十三兩六十五錢

内沃

瓦屋一千九十二間

此金一萬八千五百六十四兩

但一間十七兩

草屋一千三百五十五間半

此金一萬三千五百五十五兩

但一間十兩

墳墓四百九十九塚

此金百七十四圓六十五錢

但一塚二十五錢

(二) 家屋一萬一千六百六十四間

此金十五萬一千二百四十四圓五十錢

内訳

瓦家四千九百四十三間半

此金八萬四千三十九圓五十錢

但一間金十七圓

草家六千七百二十間半

此金六萬七千二百五十四圓

但一間金十圓

(三) 墳墓十二萬八千九百七十塚

此金一萬九千六百三十四圓四十四錢

海

堤

四田相等

内訳

有主五萬二千五百八十八石

此金一萬八千五百八十錢

但一石金三十五錢

無主七萬七千三百八十二石

此金一千五百四十七圓六十錢

但一石金三錢

備考右有主及無主ノ區別ハ其數ヲ詳カ

ニ爲シ租キテ以テ假リト總數ノ五分ノ二ヲ有主列

餘ヲ無主ト爲做セリ無主ハ陸軍ノ費用ヲ以テ

倉庫合集シタル遺骨ヲ運搬合集蘇スル費用ノ

ミテ計置キタルモノナリ



此金十萬七千四百八十二兩四十六錢

内訳

田畑(半官半民)十二萬六千三百九十九坪

此金六千三百十九兩九十五錢 但一坪金五錢

山林(半官半民)二千六百九十四坪

此金二十六兩九十四錢 但一坪金一錢

田畑(民有)七十六萬九千五百五十二坪

此金五萬三千八百四十四兩七十一錢 但一坪金七錢

山林(民有)一萬三千四百四十四坪

此金八百七十四兩八十八錢 但一坪金二錢

菓園(民有)一千三百二坪

家  
屋

此金六十五兩十錢

但一兩金五錢

鐵道監部の收用地(民有)二十一萬四千二百八兩

此金一萬四千九百九十四兩五十六錢但一兩金七錢

未調査地九十一萬二千五百五十二兩

此金三萬一千九百七十四兩三十二錢

但總計數、三分ノ一は民有ト  
有餘トシテ、七分ノ三は官有ト

合計金三十一萬六千二百二十四兩五錢

平壤軍用地

(一)家屋四千五百二十四間半

此金五萬六千三百三十四兩五錢

内訳

瓦家七百六十五間半

<p>此金一萬三千十三兩五十錢 但一間金十七兩</p>	<p>單家三千七百五十九兩 但一間金十四兩</p>	<p>此金三萬七千五百九十兩 但一間金十四兩</p>	<p>(二) 墳墓二千八百四十三兩 此金三百四十四錢</p>	<p>内訳</p>	<p>有主七百三十八兩</p>	<p>此金三百五十八兩三十錢 但一間金三十九錢</p>	<p>無主二千五百五兩</p>	<p>此金四十二兩十錢 但一塚金二錢</p>	<p>(三) 田土二百九十三石六千八十五坪九合</p>
---------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	------------------------------------	-----------	-----------------	---------------------------------	-----------------	----------------------------	-----------------------------

卷 四

<p>此金二十三萬四千八百八十六兩八錢二分但二坪金八錢</p> <p>(四) 山林原野二十六萬五千七十一坪一合</p>	<p>此金五千三百一十四兩二錢二分</p> <p>但一坪金二錢</p> <p>合計金二十九萬一千九十二兩十九錢二分</p>	<p>義州軍用地</p>	<p>(一) 家屋千五百十八間</p> <p>此金一萬五千五百五十三兩</p>	<p>内訳</p>	<p>尾家四百八十七間</p>	<p>此金七千三百五兩</p> <p>但一兩金十五兩</p>	<p>卓家千三十一間</p>
---	---	--------------	---	-----------	-----------------	--------------------------------	----------------

此金八千二百四十八兩

但一兩金八兩

(三) 墳塚千四百七十五塚

此金二百四十五兩四十七錢

内訳

有主九百三十九塚

此金二百三十四兩七十五錢

但一塚<sup>内</sup>金二十五錢

無主五百三十六塚

此金十兩七十二錢

但一兩金二錢

(三) 田土一百七十八萬九千八百四十二坪八分

此金十萬七千三百九十兩五十六錢八厘但一坪金六錢

(四) 山林原野七十四萬六千九百八十七坪三分

延

見

此金一萬四千九百三十九兩七十錢六厘但二坪金二錢  
合計金十三萬八千二百八十四兩七十八錢四厘

明治三十七年二月日韓議定書ノ協定セラレシ以來帝  
 國政府ハ韓國領土ノ保全ヲ保障スルノ責任ヲ有セ  
 シカ故ニ勢ヒ此ノ責任ヲ果スニ適當ナリト認ムル兵  
 カヲ駐劄セシメサルヲ得サルニ至レリ依テ北韓方面  
 ハ暫ク擱キ京城平壤義州等ニ不取敢我軍隊ヲ  
 置クコトニ決定セリ是等地點ノ撰定タルヤ首府及  
 交通路ノ關係上苟モ軍事眼ヲ有スル者ノ高モ遲  
 疑セサル所ナリ茲ニ於テ陸軍省ハ三十七年八月軍  
 務局軍事課長ヲ韓國ニ派遣シ京城駐在林公  
 使ト協議シ以上ノ主旨ニ依リ兵營敷地ノ撰定ニ  
 着手セシメタリ抑モ兵營敷地ノ問題タルヤ日韓  
 議定書必然ノ結果ナレハ元來韓國政府自ラ進テ

之ヲ供給スヘキヲ審然トス然レトモ韓國政府ノ狀況ニ  
 鑑ミルトキハ財政上之ヲ許サハルヘキヲ顧慮シ陸軍省  
 ハ韓國駐劄軍司令官ヲシテ韓國政府審局大臣ト  
 協議セシメ右兵營敷地内ニ於ケル韓國人民ニ苦痛  
 ヲ感セシメサル為メ土地及地上物件移轉補償費トシテ  
 金二十万円ヲ支出セシメタルハ頗ル恩惠ノ所置ヲ採ツ  
 タルモノナリト信ス加之韓國政府ハ三十八年八月十日附  
 ヲ以テ龍山、平壤、義州ノ三個所ニ對スル土地並ニ地上  
 物件移轉費トシテ支出シタル前記二十万円ハ之ヲ関  
 係人民ニ配當シ民有ノ家屋、墓地、植物等ハ軍ノ必  
 要ニ從ヒ人民ニ於テ之ヲ他ニ移轉スルコト及韓國政府  
 前記收容地ヲ全ク日本軍部ノ所有ニ屬スルニヨリ  
 爾後官民共ニ一切苦情無キコトヲ確保スヘキ公文書



う韓國駐劄軍司令官ニ交付セリ從テ韓國政府カ今日ニ至ル迄土地収用ニ関シ人民ニ訓示スル所ナキコト及該補償金ヲ支部ニ保管スル等ノコトハ陸軍省ノ関知スル所ニアラサルノミナラス却テ其ノ意外ニ驚カサルヲ得ス然ルニ今日再ヒ収用地ニ関スル問題ヲ提起スル如キハ日韓議定書ノ精神及如上収用ノ歴史ニ照シ甚タ穩當ヲ缺クノ感ナクシハアラス故ニ陸軍省ハ右兵營敷地収用ニ関シ既ニ支出セルモノ、外再ヒ補償金ヲ追出スルノ意思ヲ有セス然レトモ収用地中軍ニ於テ直ニ使用セサル地區ニ居住スル人民、地上物件及墳墓ニ對シ移轉撤去ヲ猶豫スルカ如キハ毫モ異議ナキ所ナリトス

後編

可二



明治三十七年二月ニ於ケル日韓議定書ノ主旨ニ依  
 リ帝國ハ韓國領土ノ保全ヲ保障スルノ責任ヲ生シ  
 之カ為メ兵力ヲ韓國ニ駐劄セシメサルヲ得サルニ至  
 レリ茲ニ於テ帝國政府ハ三十七年八月陸軍省軍務  
 局軍事課長ヲ韓國ニ派遣シ京城駐在林公使ト  
 協議シ兵營敷地ノ撰定ニ着手セシメタリ當時  
 北韓方面ハ敵兵出沒ガリ調査ノ困難ナルヨリ取  
 敢ス京城、平壤、義州等ノ地点ヲ調査セリ此地点  
 ハ省府及文通路ノ關係上動カスヘカラサルモノナリ  
 抑モ韓國ニ於ケル兵營敷地ノ問題タル日韓議定  
 書成立ノ結果ナレハ韓國政府自ラ進テ之ヲ供給  
 スノキタ當然トス然レトモ韓國政府財政上ヲ顧慮

陸軍

二

陸軍省ハ韓國駐劄軍司令官ヲシテ韓國政府  
 當局大臣ト協議セシメ右収用地域内ニ在ル韓國人  
 民、苦痛ヲ感セシメサル為メ土地及地上物件移轉補  
 償費トシテ金貳拾万円ヲ支出シ韓國政府ハ三十八  
 年八月十日附ヲ以テ龍山、平壤、義州、三個所ノ収用  
 地ニ對シテハ爾後日本軍部ノ所有ニ屬シ官民共ニ一  
 切苦情ナキコトヲ確保スヘキ公文書ヲ韓國駐劄  
 軍司令官ニ交付セリ此成行ハ林公使亦々承認スル  
 所ナリ

別紙調査書ニ依リハ韓國政府ハ爾來収用地ニ関シ  
 屢置スルコトナク今日再ヒ収用地問題ヲ提起スルガ  
 如キハ韓議定書ノ精神及如上収用ノ歴史ニ照シ履  
 ル穩當ヲ缺クノ感ナクシバアラス

上述ノ顛末ナレハ陸軍省ハ兵營敷地収用ニ對シ既ニ  
 支出セルモノ、外再ヒ補償金ヲ追出スルノ意思志ヲ  
 有セス然レトモ収用地中軍ニ於テ直ニ使用セサル地區  
 ニ居住ノ家屋、地上物件及墳墓ニ對シ移轉撤去ヲ  
 猶豫スルカ如キハ毫モ異議ナキノコサラス大ニ之ヲ顧  
 慮シ人民ノ苦痛ニ成ルヘク避ケ得ルノ方針ヲ執レリ  
 因ニ記ス兵營敷地収用當時ノ民ヨリハ内部大臣  
 ニ訴フル等ノ紛擾アリ又官吏局ニハ内部ヨリ漢城  
 府ハ支給金額ニテ始末ヲ命ジ府員ハ其困難ヲ  
 主張スル等ノ事情アリ(多少ノ民ノ裏面ニハ尻打  
 リ)要スルニ収用地ニ関シテハ政府ニ於テ處分ノ方  
 針ヲ定メ配當金額ノ規定或ハ家屋墓地ノ移轉  
 地ヲ指示シ或ハ耕地ノ為メニハ荒蕪地ヲ支給ス

ル等適當ノ考案アルノキナリ單ニ賠償金ノ取  
次キニテ事ノ平易ニ結了スノキ道理ナシ

0782  
0782

0782 2

寫

覽書

陸軍收用地及主義義法通保給地  
 問題に付テハ到る迄理令し取極通りニ  
 テハ佳局ね候り市ノ最初ヨリ交際  
 周到り缺キタル為ノ實際難行  
 要領ヲたし條列ス

陸軍收用地問題に付テハ戦事中  
 緊急ヲ要スル為ノ轉國例ニテ前後  
 ヲ顧ルニ違ナリ陸軍ノ要求通り僅ニ  
 誠切万圓ヲ領收シテ殆ント一千圓は  
 官民有地ヲ讓與シヨルニ此因は有

明治三十九年八月二十七日

0782 0782 ~ 2

是ノ古ノ調査志ヲ右ノ一初調査止何カ  
 長久川ノ調査中ニ至ルノ次第アリ  
 九月一日

田藤統道  
 信光軍記  
 馬

地ノミリ地代ノ中屋代基地改葬

号ノ方ニあるん金額ニテモ七八十両リ

減セズ目下必妥ニ應ニ實際収用シ

ツアアムヲ以テ在ル於万両ノ内ヨリ支出

セシメ居んニ到ル五ニ十万後ノ不足リ

生らんハ疑リ容レズ尤不必安ノ地坪リ

城郭ニシテ之ヲ隣國ニ還附スルハ隨

テ其代價ニ減少スルハ一滿リ候タス

ニ京義繞道方地ニ付ラハ最初ヨリ案

田カ合令ノ書更タアリタハ後相当

ノ代償リ仕拂キ若クハ軍用地收



用ニ比較シテ地代ヲ減少シタル為ノ我  
 帝中達成シタル後迄布地ノ代價到  
 底今日迄ノ取扱ノ通りニテハ結局純  
 相番三十万円位ニ止ト支出又安  
 トスベシ

全體収用地ノ事ニ付ラハ海軍省ノ所解ニ係  
 ルニ海軍地を分ル方各々照スモ其島甸々ノ間  
 杜撰ノ處置ヲ免ヘス今日ニ及ヒ其措置ノ  
 方各々ヲ諒スル必要ナキモ善法ノ手段ヲ講  
 ヲサシハ外人ノ不服ハ勿論各國人ノ排漢  
 ラシラ我國威ヲ損傷スルヲ難免特ニ以高

在

再

慮ヲ煩シ度リ洋相遠シク無令及フハクモ  
録ノヨリ注意ヲ喚起スル為メ以傳テ以事ト  
也

カキヨ志事ト云ク同下、

一鴨綠江森林伐採ノ事日清間ノ大紛ニテ  
會社設立ノ儀漸次相運リ振付テハ韓  
國例ノ森林經營モ不遠取極ノ必要相  
生スハク韓國政府ト追々相談セヨ  
ハ韓國政府ハ日韓協同事業トスルコトヲ  
希望スルニ存シカ如ク相見スル日來

安東縣在勸、森林技師今川某ヲ呼テ、  
 森林ノ形勢及從來ノ事務等ヲ問フ、  
 亦少島大佐、昨今來轉任官ノ意見ヲ  
 叩キ、韓國側ノ森林經營方針、討論ノ  
 末左ノ通り協議仕ル事キト官方ニ成致セ

一日韓兩國政府間ノ協同事業ト為ス

附録トス

二日韓兩國ニテ會社ヲ組織シ、兩國政府

ニ幾分ノ株權ヲ所カシ、日韓人民

シテ残余ノ株權ヲ所有者セシム

右二條ノ内何ニ決スルモ、木枝採伐經營及

事業ハ到る政府ニテ擔任スルニアラサレハ成  
 功覺東ナシ特ニ軍人ヲ使用セサレハ軍ニ民  
 衆ノ経運ニ委ラン時失敗ニ終ル事不意疑  
 ト云コアリ是レハ馬大ヤノ意見致キ本旨  
 モ之ニ同意ヲ表シ至キタリ而シ之ヲ東年ヨ  
 リ寄ル行スルニモトスルモ今年ヨリ其設備ニ  
 取掛ラサレハ其機ニ應ル能ハザル事情アリ江  
 岸ノ遠長ナル程處々人氏ヲ推任セシメ食  
 物ノ供給ニ便ナラシムルト流筏ニ乘スル人夫  
 ヲ各所ニ配置スル等ナリ此事ハ小島大佐ニ  
 協議ノ上同人ヨリ我陸軍ニ伺出ん長ナリ本

陸軍

官ハ向人ニ依頼シテ其設備ニ着手センコトヲ  
 以テセリ後備ノ費用ハ概算八万円ヲ要スルコトヲ  
 事ニ付日協同事業成ニ付上ハ日韓折半ニ  
 シテ之ヲ支出シ協同成ニセサル場合ハ韓國  
 ノミノ徑ニモトスルノ外ナシ左ノ如ク日韓政  
 府ヲシテ講信セシムコトシ

右西園寺首相閣下、以今令為申入ルニ至  
 リ陸相及外相トモハ熟議アリシコトヲ乞  
 ハ月廿五日迄本内閣長官ニ於テ傳達ス

博文

1917

1917


秘 閣

6840

房官臣大		課局務主		裁 決	大 臣	件 名	受 番
了結	領受	出提	領受				號 領
明治 丁	明治 年	明治 年	明治 年		次 官	支小可申地所家凡差地立除ノ件	授 領 省 滿 密 受 第 二 七 五 號
明治 丁	明治 年	明治 年	明治 年	主務局長			參事官
長 局 帶 聯		主務課長		主務課長	高級副官	主務副官	支 付
長 課 帶 聯		主務課員		主務課員	主 計		
者 記 筆 案 審							

明治  
丁  
三月十日

支

結 

左 頁

大寺より神國注別軍目録

龍山甲用地内於ヶ儿兵部軍目録之矣し別紙  
 甲号と通り大岩来博也ノ申出記のし七号ノ  
 通下船原也官より後出ノ申出ツル趣ノ記  
 出ツリ申出ノ移味ノ来リ後出ノ申出ツル趣ノ  
 抄念をうしなリ後出ノ申出ノ案ノハ後出  
 友ノ以テ申出打合官ノ上申出ツル趣ノ  
 案ノ記ノ一宮ノ内記ノ現立タル家内墓地  
 等ノ福ノ案記ノ抄念をうしなリ後出ノ申出  
 目ツル身ノ申出ノ土地ノ申出ツル趣ノ抄念  
 せしメバト申出ノ申出ツル趣ノ抄念ノ下推  
 考

延興者下熟露ノ之等支才本たりたし古由  
ノ海始リ此ノ小標は考るゝと云ふは其  
中人 〇 知ラケム其ノ指掛ノ時云々

此ノ縁ヲ抑ルル者ノ交ハシニ百果(臣)ノ藝  
通ル所存ルル者ノ高為ルル武ノ城云々ノ第  
海も人書ルル中ノ移接ノ起ルル者ノ下ニ行  
空ニ物ニ中ノ運来ノ充ルルは記云々ノ下ニ存  
此ノ高為ルル者ノ下ニ行ルル者ノ下ニ行  
事々々ノ中ノ移接ノ起ルル者ノ下ニ行

陸軍省 満蒙發第 二〇九 號

六月二日

大正五年、伊蘇統兵、  
新山軍用地内、於てん兵學士建築ニ伴、

陸 軍 省



0792

閣下別付の通牒を駁却する旨を  
乃台古子承事おしめす

陸軍省 送達 満密發第 二一〇 號

六月二日



統ニ送第ハ号

今般龍山軍用地内ニ兵營ヲ建築スルニ付家屋  
 墳墓耕作物等取拂方ノ件ニ関シ別紙寫ノ通り  
 駐劄軍司令部ヨリ申越有之々依テ其旨直ニ  
 内部大臣ニ移牒及置テ本件ハ頗ル多數ノ  
 民家其他ヲ取拂ヒキ義ニ有之且ツ其時日モ  
 餘程切迫致居タニ付韓國官憲ニ於テ期限内  
 ニ撤去ノ取計ヲナスコトハ六ヶ敷カルハク自然  
 我軍官憲ニ於テ自ラ之ヲ実行スルコトニ立  
 至ルハクト思考被致タ本官ノ推斷ニテハ何レ  
 ノ道本件実行ノ曉ニハ關係人民ヨリ甚シキ苦

情ヲ持出し其結果紛擾ヲ生スルヤモ難計ト被  
存及ニ付之ニ関シ豫メ御考量ヲ仰キ置度共  
ノ為別紙来書寫地因相添爰ニ具報致之敬  
具

明治三十九年五月廿四日

統監府総務長官鶴原定言

統監侯爵伊藤博文閣下

寫

龍山軍用地内ニ於テ兵營建築ヲ要シ兵卒差  
向キ別紙四面内現在ノ墓所家屋耕作物等ハ  
左記期日内ニ悉皆撤去セシメラレテ様御取  
計相成度此段及照会共也

進テ右期日内撤去セサルモノアル場合ニ於テハ  
時日ニ依リ當部ニ於テ取掛ヲ実行シ其  
經費ハ韓國政府ノ要求共様ノ事モ可  
有之ニ付此段申添共也

明治三十九年五月二十二日

韓國駐劄軍務隊長大谷喜久藏

陸 軍 省

統監府總務長官鶴原定吉殿

第一号ノ内

耕作物ハ明治三十九年六月十五日限り

同

家屋墓所ハ同年同月三十日限り

第二号

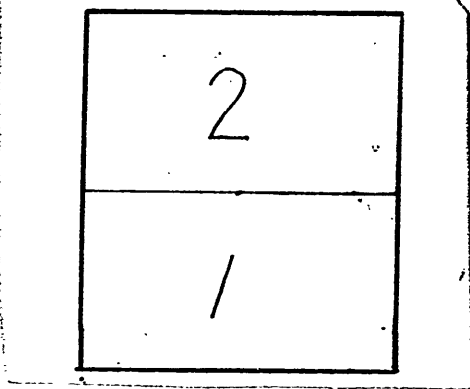

明治三十九年八月三十日限り

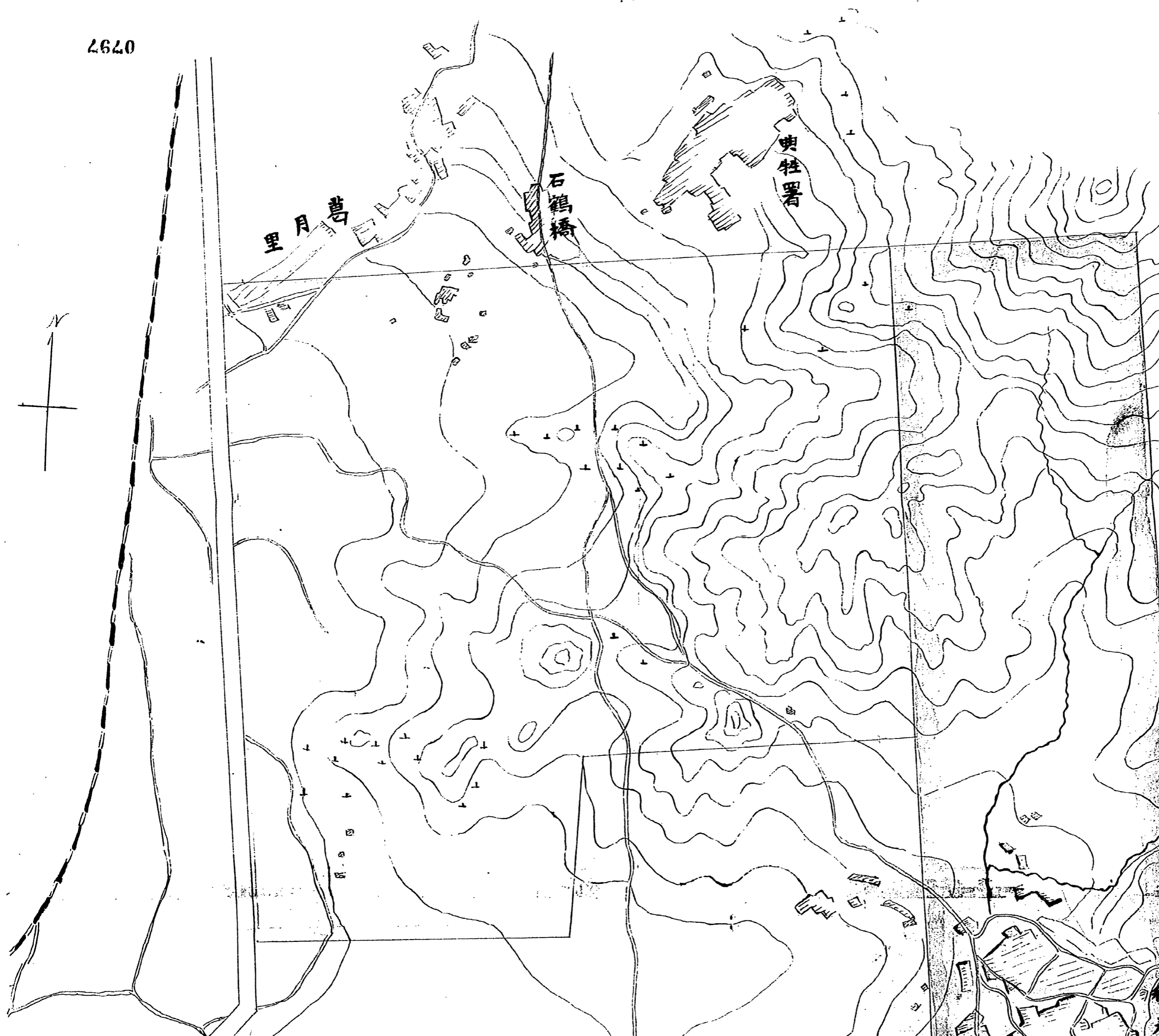
第三号

同年十月三十一日限り

以上地域外右等物件撤去ノ必要有之場合ニ於  
テハ更ニ期日ヲ定メ豫メ可及照會ス

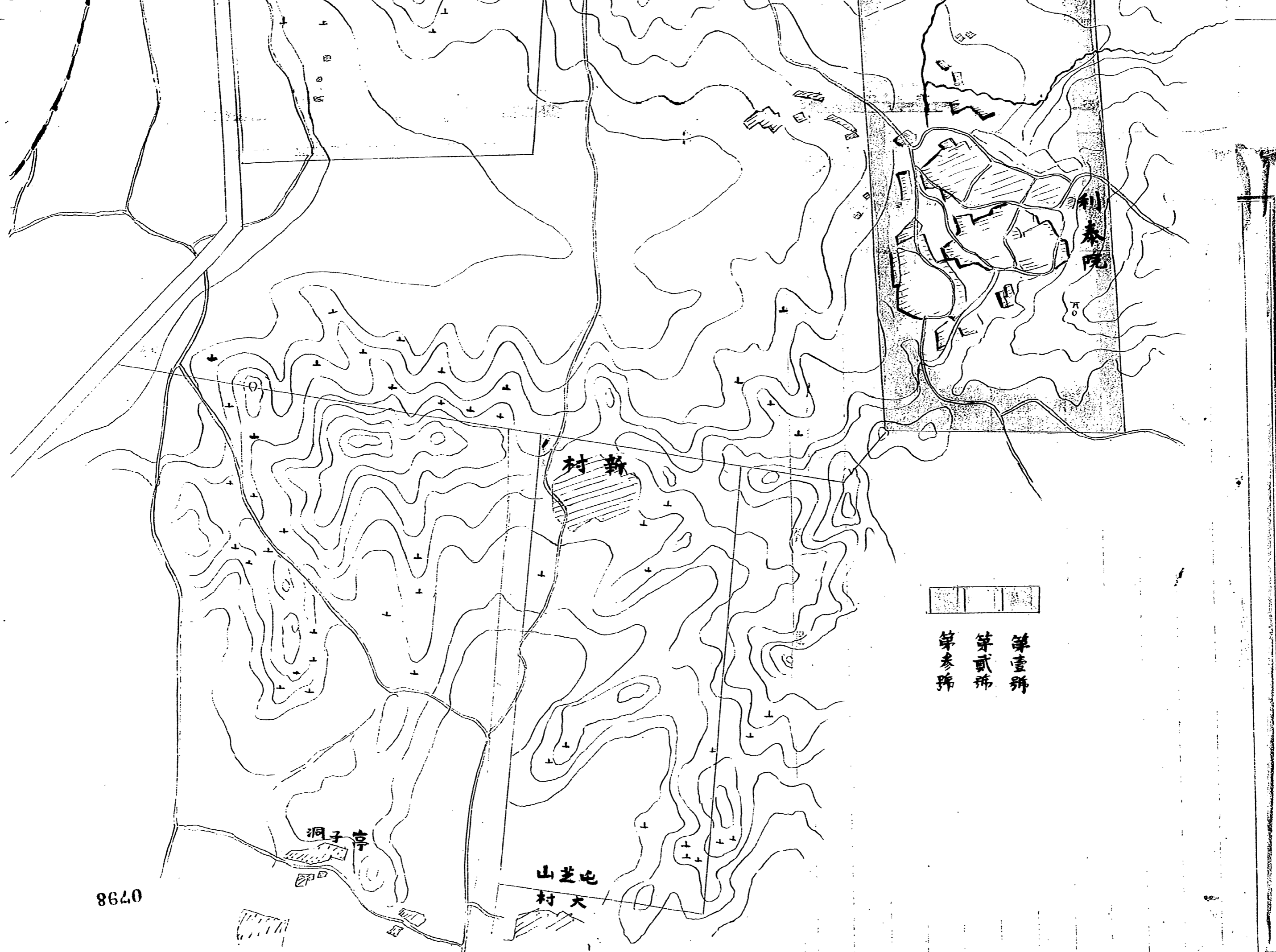
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 29 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



龍山兵營敷地明細圖

五千分の一



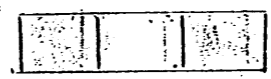
8640

利泰院

新村

洞子亭


山芝屯  
村大

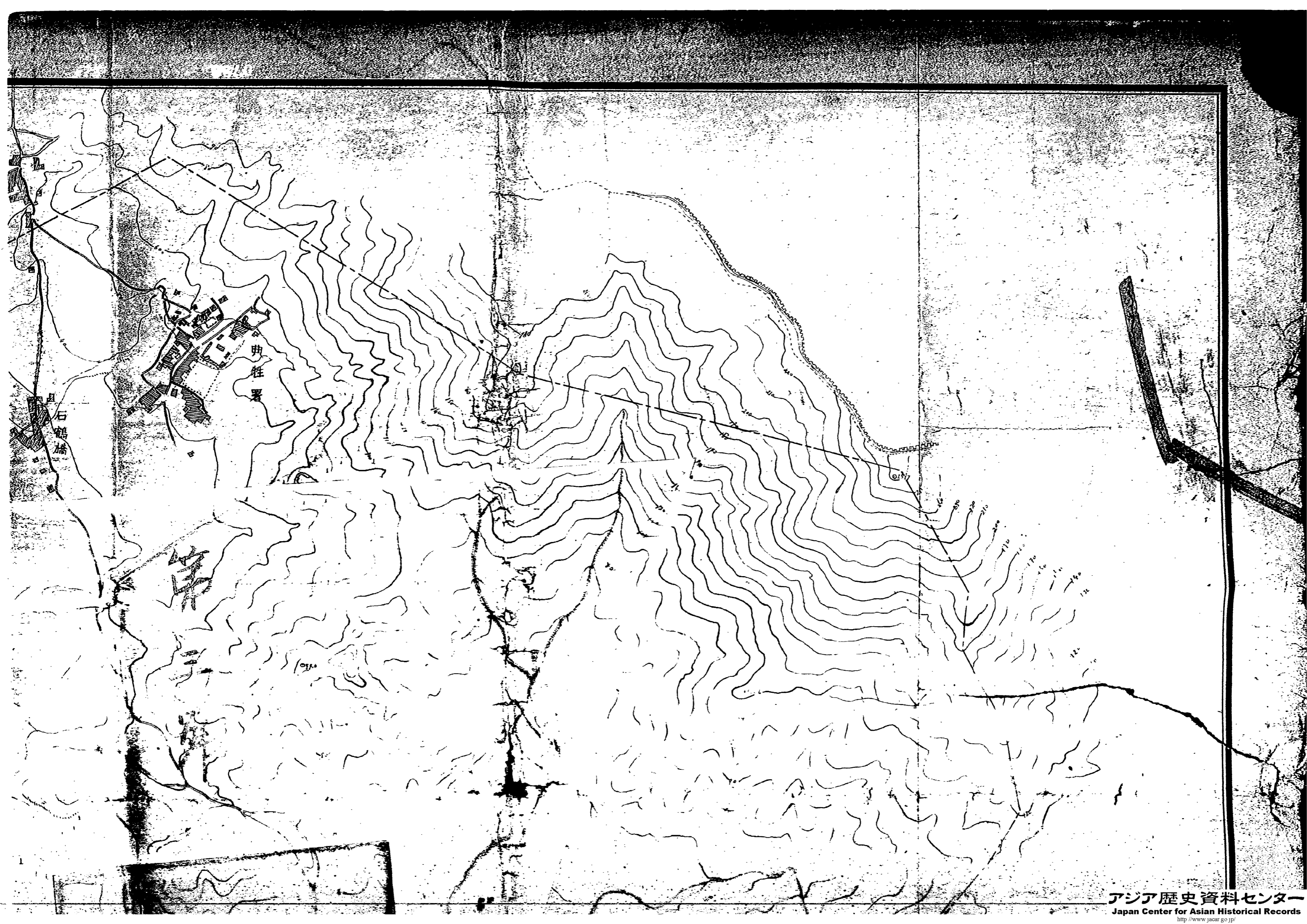


第一辨  
第二辨  
第三辨



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="678 427 1054 757"><tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>	7	8	9	4	5	6	1	2	3
7	8	9								
4	5	6								
1	2	3								
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため									
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 8 月 29 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>										

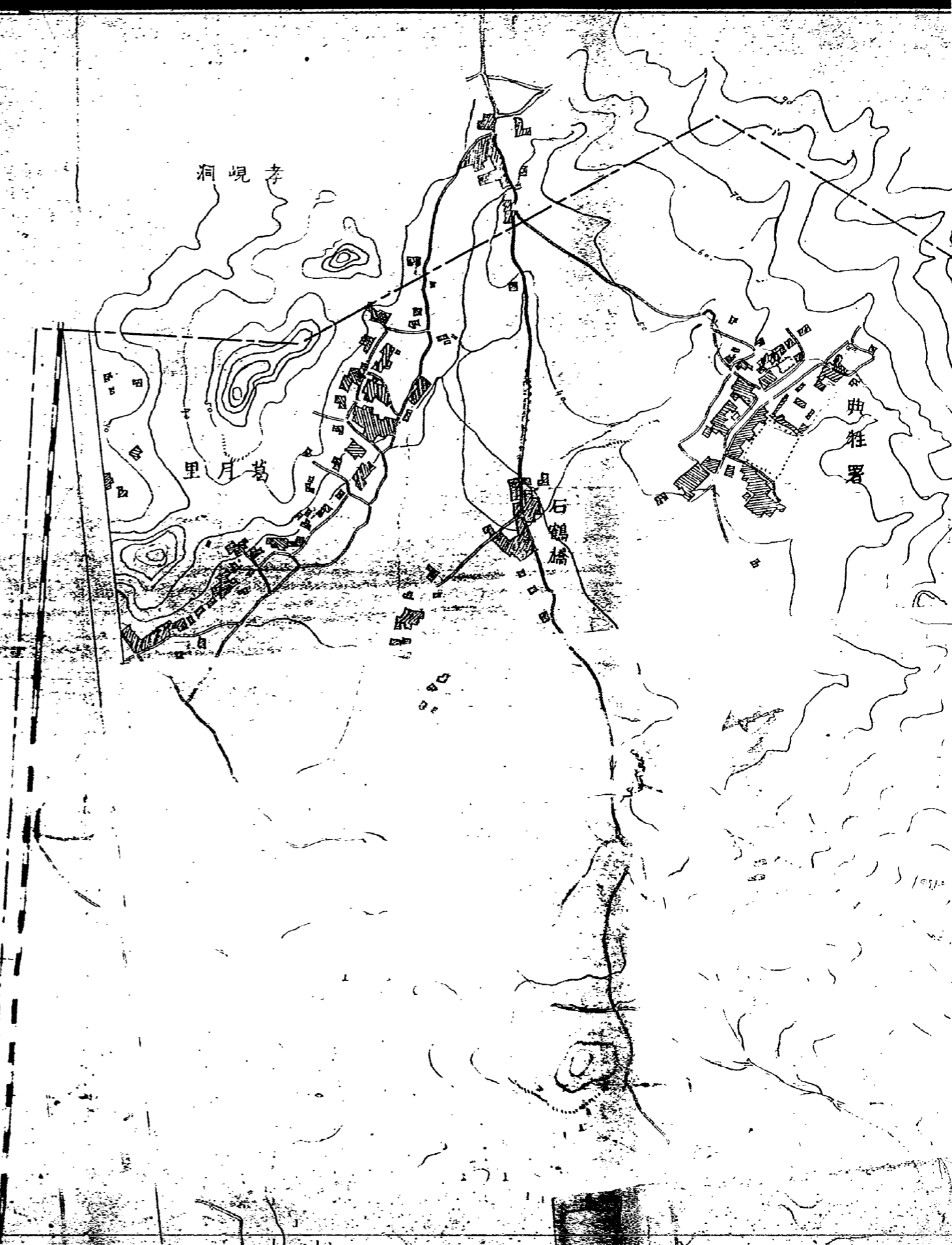


典牲署

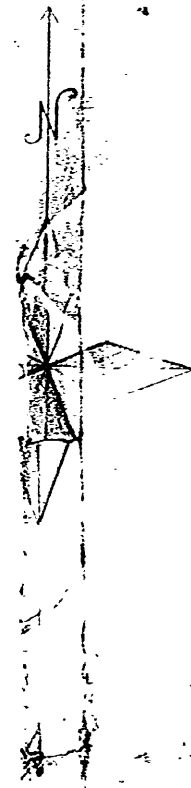
石鶴島

第

# 韓國龍山軍用收容



- 第一隊 三十九年六月限  
但新作物二十五日
- 第二隊 三十九年八月三十一日
- 第三隊 四十年四月三十日
- 第四隊 三十九年八月三十一日  
但新作物六月廿



# 朝鮮國龍山軍用收容地明細圖



第一號

三十九年六月廿一日

第二號

三十九年八月三十一日

第三號

四十年四月三十日

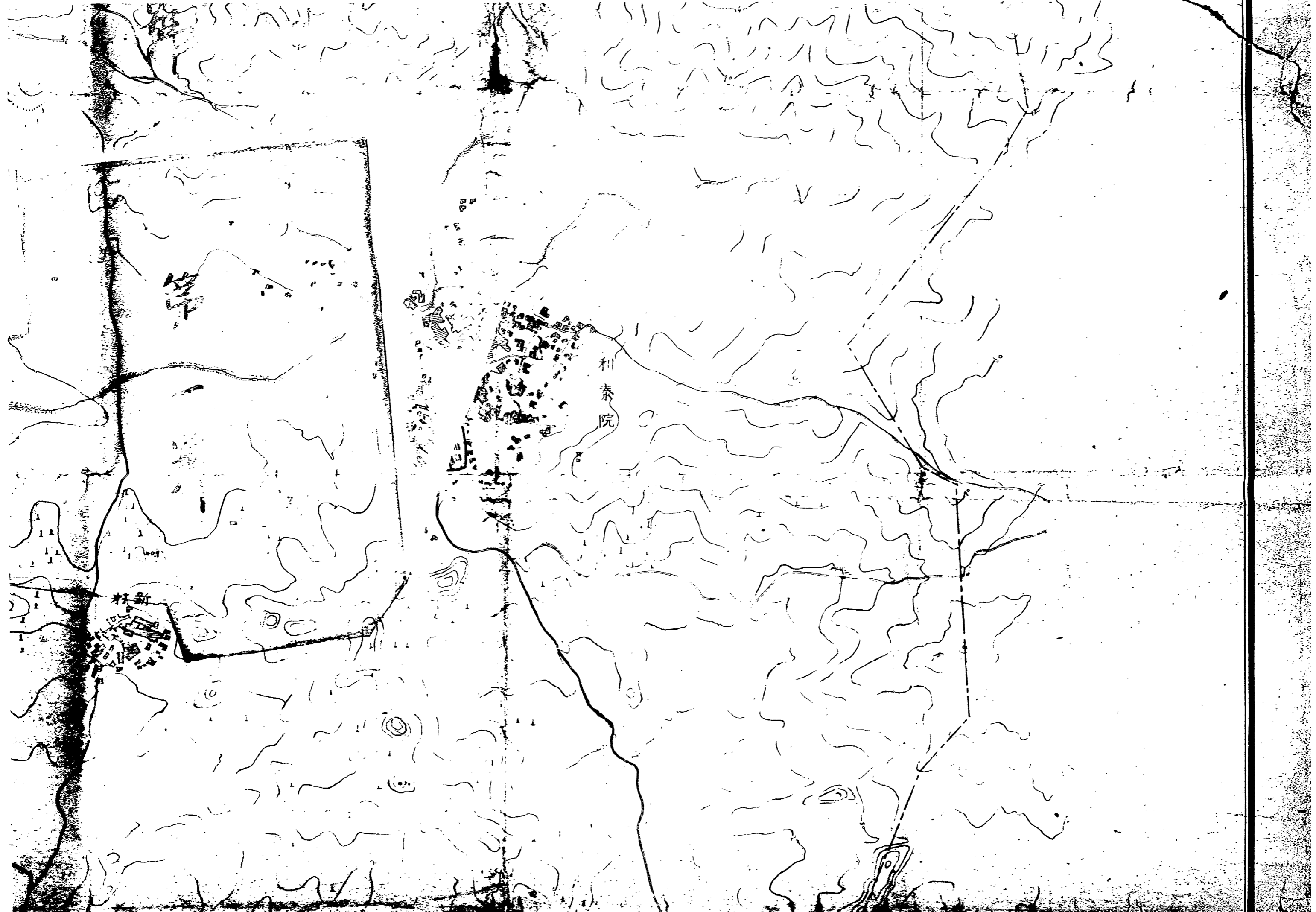


第四號

三十九年八月三十一日



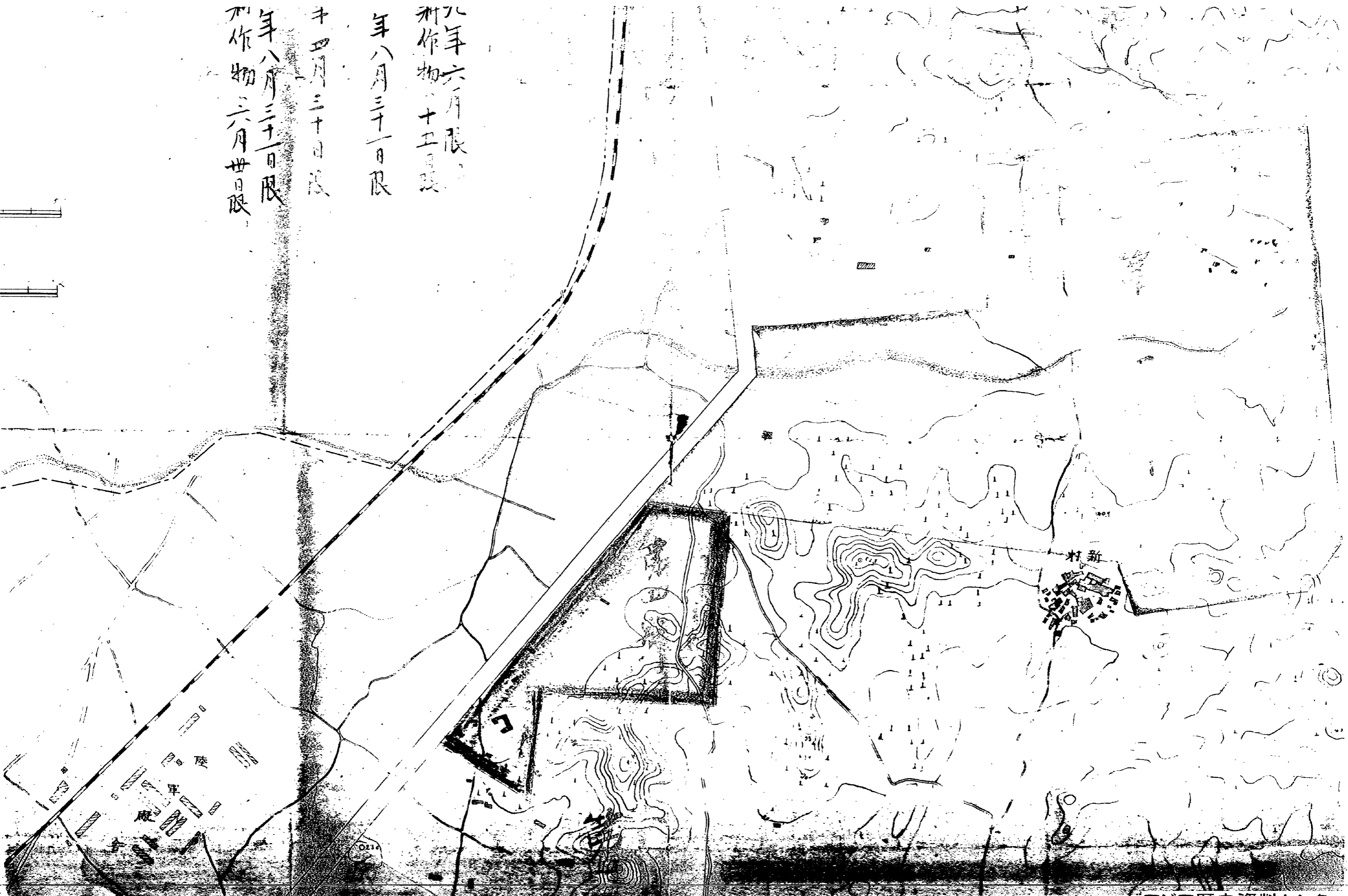
3Lab. of



利泰院

新井

九年六月限  
新作物 十五日限  
年八月三十一日限  
年四月三十日限  
年八月三十一日限  
新作物 六月廿日限



八年六月限  
和作物十二月限

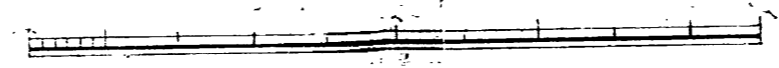
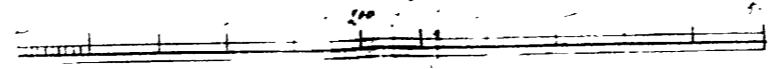
年八月三十日限

年四月三十日限

年八月三十日限

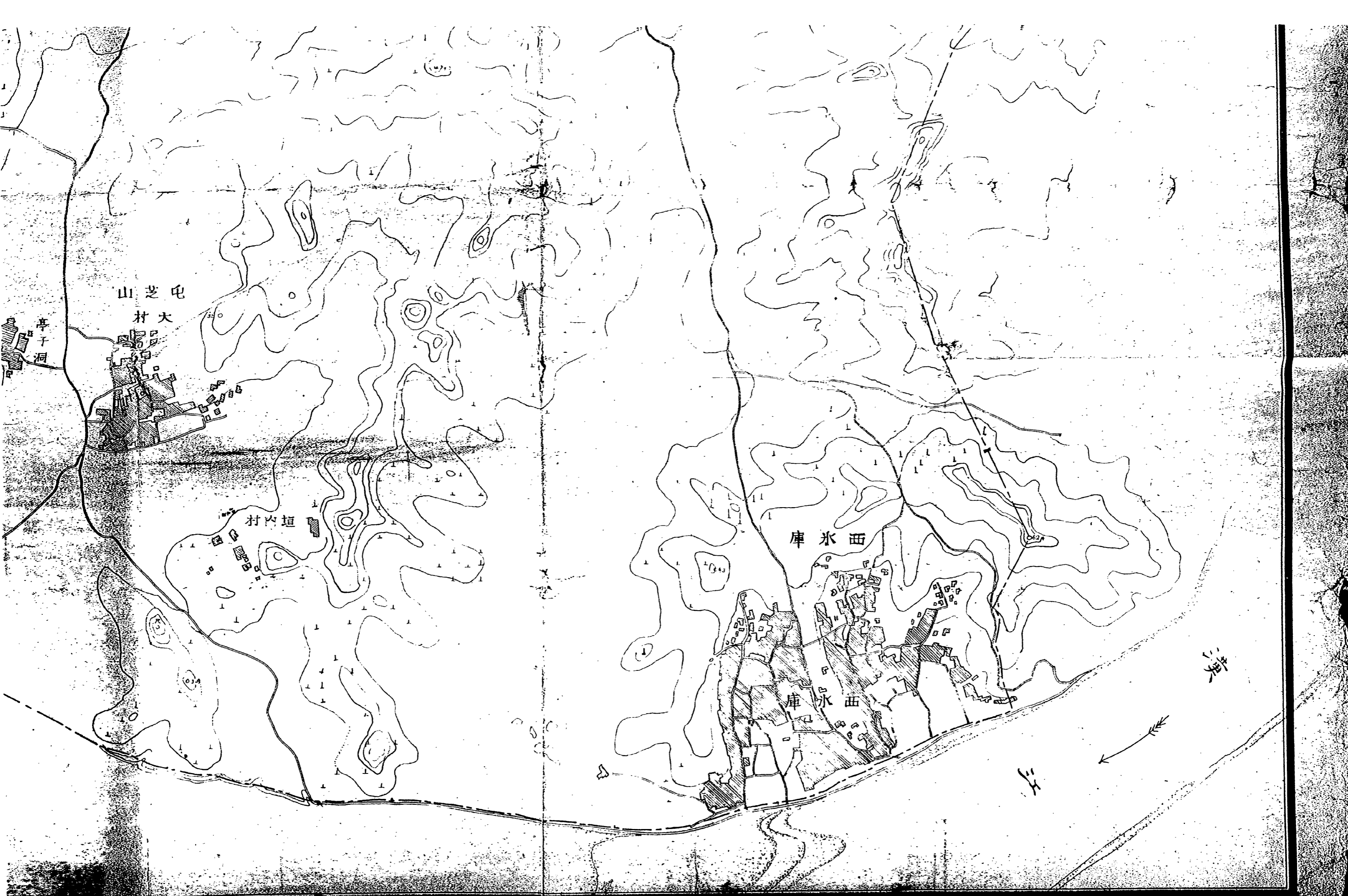
和作物六月廿日限

3600 尺



町 里





山芝屯  
村大

亭子洞

村内垣

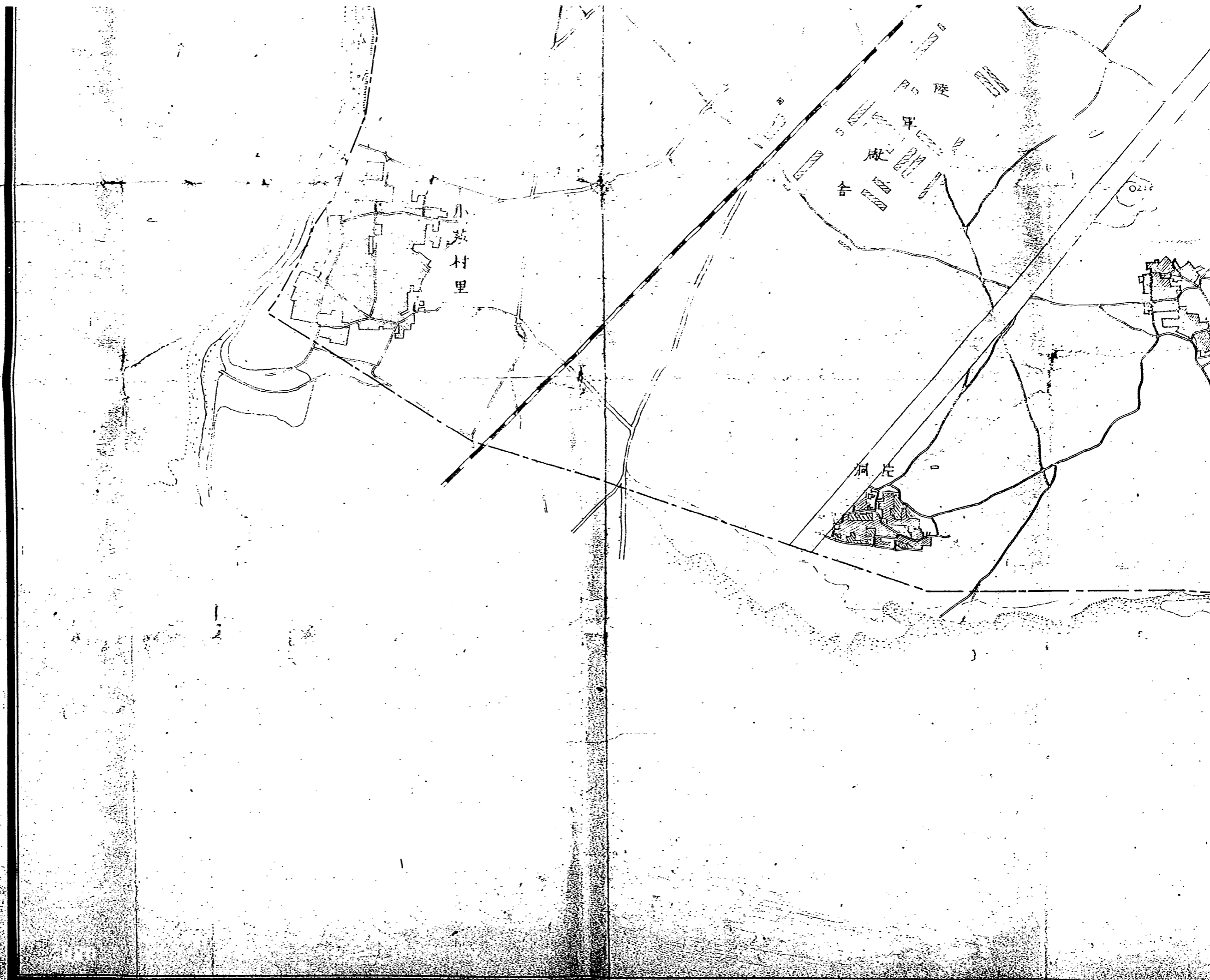
庫水田

庫水田

河







小菰村里

陸軍  
吉

洞片

8080

韓臨建第

一七

號

附圖

6080

開

大臣

次官



明治九年六月十一日

陸軍大臣寺内正毅殿

陸軍大臣寺内正毅殿

漢密裝万二〇九子ノ浮龍山軍用池内  
人民貯蓄物件撤去園には中城下  
了る方の上京中打屋也、結果各院官舎  
各別運築スル必也、事下事案可儀  
至下且は無旨ノ面(五)人民ノ運持案办

韓臨建第

一七

號



五月十五日

軍務三三號

左

右

土地區分ヲ指シ更ニ別列國名ノ通法定  
 し其換期限ニ關シ兼書ノ如ク修正  
 一上統府ノ交涉方爲開列在様  
 以爲行本率領中爲P也也

土佐紙會館印